

牛だつて跳べるのだ！ えびの市に伝わる牛越祭 うしこえまつり

えびの市は宮崎県の南西部に位置する、人口三万弱の農業と観光の町である。

市内を流れる川内川せんだいがわは西流し、鹿児島県へ入り、川内市で東シナ海に注ぐ。県内で西へ流れるのはこの川だけである。

そのせいで昔から島津氏の影響が強く、言語・風俗・習慣は鹿児島県のものによく似ている。良質な米ができ、スイカ、シイタケ、茶などを特産し、畜産も盛んである。

かつて農家にとって牛は貴重な財産であり労働力であった。いわば家族の一員でもあった。それは人並みに行事に参加させる例が全国的に数多く見られることでもわかる。

ここ、えびの市でも、七月二十八日に、菅原神社（一三九二年創建と伝え、菅原道真を祭る）で牛越祭というユニークなお祭りが行われる。祭神の菅原道真の末裔にあたる道正公が、牛を愛し、その繁栄を図るため、この祭りを起こしたと伝えられている。

祭りの主役は牛である。

江戸時代には、現代の鹿児島や熊本から七百頭以上の牛が集まったといわれる。



いわば牛の走り高跳び競争とでもいう行事で、境内に横たえられた丸太を、引き綱で引つ張られ、後から追われながら跳び越えるもの。なかにはのっそりとした重い体ながらも二尺

（約六十センチ）も跳ぶ牛もいる。毎年数十頭出場するが、三百年以上にもわたって続けられているという。江戸時代には、現在の鹿児島や熊本からも七百頭以上の牛が集まり、両端に繋がれた牛は1kmに及んだといわれる。

農繁期を働きづめで過ごした牛に感謝を捧げ、無病息災を願って始められた。

役牛の少なくなった現在では、肉牛や乳牛が参加している。それでも雰囲気は昔と変わらず、よその牛に負けてはならじと気合が入り、祭りは一層盛り上がりしていく。